科目区分：芸術文化課程・音楽文化コース
授業科目名：伴奏法②
対象年次：３年次（11 名受講）

伴奏法②

音楽教育講座・安積京子

１．授業の目的と到達目標

本授業は、ピアノ演奏法や表現法を応用発展させ、教育や音楽実践の場において柔軟に対応出来るピアノ伴奏能力を養うことを目的とする。またピアノアンサンブルを通して、他者と音楽を共に奏でることによって、アンサンブルの楽しさ、喜びを共有し、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。

３年次の前期の伴奏法①において、すでにピアノ伴奏法に関する基礎的な知識および技能を習得している。本授業の後期の伴奏法②では、更に発展的な内容の課題を実施し、ピアノ伴奏法と、２台ピアノによるアンサンブルにおいて幅広い専門知識と高度な演奏能力を身につける。

２．授業の概要について

本授業は、芸術文化課程音楽文化コース３回生を対象に開講されている。今期の受講生は、３回生が 10 名、４回生が１名の合計 11 名である。1 名を除く全員がピアノ専攻の学生であり、ソロの演奏経験は多い。しかし、伴奏やアンサンブルの経験はまだ少ないため、４回にわたってプロのソプラノ歌手をゲストに迎え、ドイツ歌曲やイタリア・オペラの名曲を学生達と共演させた。また２台ピアノによるアンサンブルを学び、学内の公開演奏会にて、その成果を披露した。

３．関連するディプロマポリシー

１）地域社会における音楽文化振興に貢献するために、高い演奏技能と豊かな音楽的表現力を身につけている。（技能・表現）
２）人と音楽との関わりや音楽の持つ深い精神性を理解し、音楽を通じて社会に広く貢献できる。（態度）

４．授業の課題について

受講者が選択した課題の一部を記す。
（歌曲伴奏による課題曲）
○モーツァルト：すみれ、クローエへ
○ベートーヴェン：君を愛す
○シューマン：はすの花、くるみの木、献呈
○R.シュトラウス：献呈、明日
○ヘンデル：私を泣かせて下さい
○プッチーニ：私の愛しいお父さん
○映画「ティファニーで朝食を」の主題歌：ムーン・リバー
○映画「レ・ミゼラブル」より：夢破れて
（２台ピアノによる課題曲）
○ラヴェル：マ・メール・ロワより「パゴダの王女レドロネット」「美女と野獣の対話」
○ラヴェル:スペイン狂詩曲より「火の祭り」
○モーツァルト：２台のピアノのためのソナタ ニ長調 K.448 より第１楽章、第３楽章
○ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第２番より第１楽章

５．指導上のポイント

１）歌曲伴奏法に関して

課題曲のドイツ歌曲やイタリア・オペラの内容を的確に理解するために、始めにドイツ語やイタリア語の歌詞を全員で朗読し、訳を確認した。歌手のブレス（息継ぎ）の場所を考察し、ブレスの長さやタイミング、息の流れについて重点的に学んだ。その上で、各曲の背景にふさわしい音楽表現について話し合い、ピアノ伴奏の表現技術を高めるための指導を行った。

２）２台ピアノによるアンサンブルに関して

今期は学生の強い希望によって、２台ピアノによるアンサンブルを取り上げた。初めて経験する学生が多いため、２台のピアノで表現する難しさ､楽しさを感じてもらうために、多くの時間を費やし、学生の個々のレベルに応じた丁寧な指導を心がけた。また、公開演奏会を開催することによって、目的が明確になり、練習のモチベーションを高めるように設定した。

６．授業アンケート

公開演奏会後の本授業終了時に、受講者 11 名を対象に無記名方式で、下記の８項目の４段階評定によるアンケートを実施した。また自由記述も併用した。

１）集計結果について

1.本授業に興味を持ち積極的に参加出来たか。
出来た　7 名
どちらかといえば出来た　4 名
どちらかといえば出来なかった　0 名
出来なかった　0 名

2.本授業のための準備は毎回充分であったか。
充分であった　0 名
どちらかといえば充分であった　7 名
どちらかといえば充分でなかった　3 名
充分でなかった　1 名

3.出席状況は良好であったか。
良好であった　2 名
どちらかといえば良好であった　7 名
どちらかといえば良好でなかった　1 名
良好でなかった　1 名

4.授業課題の量は適切であったか。
適切であった　7 名
どちらかというと適切であった　4 名
どちらかというと適切でなかった　0 名
適切でなかった　0 名

5.授業の難易度は適切であったか。
適切であった　7 名
どちらかといえば適切であった　4 名
どちらかといえば適切でなかった　0 名
適切でなかった　0 名

6.授業中は良好な雰囲気が保たれていたと思うか。
そう思う　7 名
どちらかといえばそう思う　4 名
どちらかといえばそう思わない　0 名
そう思わない　0 名

7.受講後、新しい専門知識や演奏技術を得ることができたと思うか。
そう思う　11 名
どちらかといえばそう思う　0 名
どちらかといえばそう思わない　0 名
そう思わない　0 名

8.本授業を受講したことが、今後の学習に有意義であると思われるか。
そう思う　11 名
どちらかといえばそう思う　0 名
どちらかといえばそう思わない　0 名
そう思わない　0 名

9.本授業で良かった点（自由記述より抜粋）
○教科書掲載曲を習い、教育実習で役立った
○プロの声楽家と共演でき大変勉強になった
○２台ピアノのレッスンが充実していた
○先生が学生の意見を取り入れていた

10.本授業で改善すべき点（自由記述より抜粋）
○全員を均等にレッスンできるよう時間配分に気をつけてほしい。
○実技の授業は、直前に合わせの練習等ができるように、1 限にはしないでほしい。
○プロの声楽家からの目線で、もっと多くのアドバイスを受けたかった。

11.感想（自由記述より抜粋）
○安積先生のレッスンはとてもエネルギッシュで、またどの先生とも違ったタイプのレッスンで楽しかったです。
○ 安積先生のフレンドリーでフランクな人柄は貴重だと思います。

２）アンケート結果のまとめ

授業準備に関しては、どちらかといえば充分でなかった学生が多い。授業課題の量と難易度は適切であったという回答が多かった。全員が受講後、新しい専門知識や演奏技術を得ることができ、また今後の学習に有意義であったと回答している。

７．今後の課題

受講者 11 名全員を毎回 1 時間半以内で、均等に指導することの難しさを痛感した。今後は、個々のレベルに適した丁寧な指導を心がけながら、タイムウォッチで計る等、徹底して平等な時間配分にする。また授業準備の重要さを事前に指導すると共に、主体的に学ぶ姿勢を持たせるためのプログラムについて再検討する必要がある。